

時	内容	活動	有効であった点	子どもたちの反応
1	俳句の基本理解 「俳句の可能性」 単元の読解 俳句の鑑賞	<p>めあて <u>俳句を通して季節や言葉の美しさを感じよう！</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 俳句の基本原則（有季定型・季語・切れ字）を確認する。 「俳句の可能性」を読解し、「無季俳句」「自由律俳句」への理解を深める ※講師が教科書を基に作成した穴埋め形式のプリントを活用し、日本語力の弱い生徒に配慮する。 教科書に掲載されている俳句を鑑賞する 「俳句プレゼント活動」を行う <ul style="list-style-type: none"> - クジを引いて友人の名前を選び、相手にふさわしい俳句を教科書から選ぶ。 - なぜその俳句を選んだのかを発表する。 本文を通読し、筆者が俳句を作るうえで何を大切にしているのか理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 穴埋め形式のプリントを使うことで、日本語力の弱い生徒も基本事項を確認することができた。 俳句プレゼント活動は、相手にふさわしい俳句を選ぶ過程で季語や言葉の意味を深く考える機会となった。 	<p>俳句プレゼント活動では、友達に合う俳句を選ぶ過程で言葉の意味や季節感を深く考える姿が見られた。発表では理由をしっかりと述べる生徒の発言により、他者の視点を考えることもできた。全体的に、俳句への興味が高まったことが印象的だった。</p>
2	俳句を作る。	<p>めあて <u>ブレインストーミング法で俳句を作り、季語の使い方や歳時記の工夫を学ぼう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「俳句の創作教室」を活用し季語を使った俳句を作る。 ブレインストーミング法を使って俳句を作る（教科書を基に講師がオリジナルプリントを作成し、日本語力の弱い生徒でも簡単に取り組めるよう工夫する一方、日本語力の高い生徒には、難しい季語やユニークな季語を提示するなどの配慮をする）。 歳時記の利用の仕方を学ぶ。 クラスメイトの俳句を鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「俳句の創作教室」単元を活用し、季語を取り入れた俳句を作ることで、季語の意味や使い方を実践的に学べた。 難しい季語やユニークな季語を提示する工夫により、日本語力の高い生徒も挑戦できた。 ブレインストーミング法を使ったことで、自由な発想が促され、季語を取り入れた俳句のアイデアを豊富に生み出すことができた。 穴埋め形式のプリントを活用し、日本語力の弱い生徒も無理なく参加できた。 	<p>俳句創作活動では、季語や歳時記への関心が高まり、自由な発想で俳句作りを楽しむ姿が見られた。鑑賞活動では他者の表現を認め合い、言葉の美しさを共有する雰囲気生まれた。</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・歳時記の使い方を学ぶことで、季語選びの幅が広がり、俳句の質が向上した。 ・クラスメイトの俳句を鑑賞する活動を通じて、他者の表現から新しい発想や季語の使い方を学べた。 	
--	--	--	--	--

<伸ばせた力、子どもの変化、保護者の反応など>

伸ばせた力

- ・ **言語感覚・表現力**
季語や切れ字を意識した俳句作りを通じて、日本語の響きや言葉の選び方を深く考える力が育った。
- ・ **発想力・創造力**
ブレインストーミング法により自由なアイデアを出し、季節感を取り入れた独自の俳句を創作する力が伸びた。
- ・ **鑑賞力・コミュニケーション能力**
クラスメイトの俳句を鑑賞することで、他者の表現を理解する力が高まった。

子どもの変化

- ・ 季語や歳時記に興味を持ち、授業後に「もっと季語を調べたい」「家でも俳句を作ってみたい」という声が出た。
- ・ 日本語力の弱い生徒も穴埋めプリントや簡単な季語の提示により、自信を持って俳句作りに参加できた。
- ・ 日本語力の高い生徒は難しい季語やユニークな季語を用いることで、表現の幅が広がった。

保護者の反応

- ・ 「季節の言葉を家で話すようになった」「俳句を家族に披露してくれた」など、家庭での言語活動が増えたとの声があった。
- ・ 「日本語の美しさを感じる良い機会になった」「国語への意欲が高まった」という好意的な評価が多かった。

<所感>

今回の授業では、俳句を通して季節や言葉の美しさを感じるという目標に沿った多様な活動を取り入れることができました。基本原則の確認から鑑賞、創作、発表まで一連の流れを通じて、生徒の興味を引き、言葉への感受性を高めることができましたと感じています。特に、俳句プレゼント活動やブレインストーミング法による俳句作りでは、互いの感性を尊重しながら交流する姿が見られ、俳句の魅力を共有できたことが印象的でした。今後も、日本語力の差に応じた工夫を重ね、創造的な学びをさらに広げていきたいと思ひます。